

科目名	アドバンスレッスン 1								年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1								学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	BAN・藤田美保	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 楽器の名称、分類、構造や音色、ルーツ（歴史）、演奏方法、音域、主に使用されている音楽ジャンルなどの知識を得ること とで、楽曲制作・アレンジに取り入れられるようになり、豊かな音楽表現を追求していく。										
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積 極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】 A. 小規模アンサンブルの特徴や楽器奏法が理解できる。 B. 音を聞いて小規模アンサンブルの各楽器の名称がわかるようになる。 C. 小規模アンサンブルの特性を活かして楽曲制作に効果的に取り入れられるようになる。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認め ない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	小規模アンサンブル の特徴や楽器奏法が 理解できる		小規模アンサンブル の特徴が理解できる			到達目標Aについてさ らなる努力が必要				
到達目標 B	音を聞いて小規模ア ンサンブルの各楽器 の名称がわかるよう になる		小規模アンサンブル の各楽器の名称がわ かる			到達目標Bについてさ らなる努力が必要				
到達目標 C	小規模アンサンブル の特性を活かして楽 曲制作に効果的に取 り入れられるように なる		小規模アンサンブル の特性を説明するこ とができる			到達目標Cについてさ らなる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン 1			年度	2025
英語表記		Advanced lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	楽器の歴史	楽器の理解	1 楽器の歴史	楽器の歴史理解	3	
			2 楽器の分類	楽器分類ができる		
			3 オーケストラ	オーケストラ認識		
2	ヴァイオリン	ヴァイオリン習得	1 ヴァイオリン概要	ヴァイオリン基礎	3	
			2 ヴァイオリン奏法	ヴァイオリン奏法習得		
			3 ヴァイオリン役割	ヴァイオリン役割把握		
3	ヴィオラ等	ヴィオラ・チェロ習得	1 ヴィオラ特徴	ヴィオラ特性把握	3	
			2 ヴィオラ演奏	チェロ奏法理解		
			3 チェロの役割	チェロ演奏実践		
4	ベース類	ベース系習得	1 ベース技法	ベース構造理解	3	
			2 コントラバス構造	コントラバス役割把握		
			3 弦楽器範囲	弦楽器音域認識		
5	ハープ等	ハープ等習得	1 ハープの役割	ハープ演奏基礎	3	
			2 ギターの歴史	ギター歴史把握		
			3 その他弦楽器	多様な弦楽器知識		
6	弦楽合奏	旋律譜面読解	1 弦楽合奏理論	合奏で旋律演奏	3	
			2 譜面の読み方	弦楽器譜面読解		
			3 旋律と和声	合奏で和声作成		
7	高音木管	高音木管習得	1 高音木管特性	高音木管の特徴	3	
			2 木管楽器構造	木管楽器奏法習得		
			3 フルートの技法	フルート演奏実践		
8	低音木管	低音木管習得	1 低音木管概論	低音木管理解	3	
			2 ファゴット奏法	ファゴット基本演奏		
			3 クラリネット役割	クラリネット演奏実践		
9	高音金管	高音金管習得	1 高音金管概要	高音金管知識	3	
			2 トランペット特性	トランペット基礎		
			3 ホルンの役割	ホルン特性理解		
10	低音金管	低音金管習得	1 低音金管特性	低音金管の理解	3	
			2 トロンボーン技法	トロンボーン奏法		
			3 チューバの構造	チューバ演奏技法		
11	管楽合奏	管楽旋律理解	1 管楽器総合	管楽器総合理解	3	
			2 管楽器譜面	管楽器譜面読解		
			3 オーケストラ配置	管楽器演奏実践		
12	ピアノ	ピアノ技術習得	1 ピアノの歴史	ピアノ演奏基礎	3	
			2 ピアノ演奏法	ピアノの役割理解		
			3 ピアノの役割	ピアノ演奏習得		
13	オルガン	オルガン技術習得	1 オルガンの概要	オルガン特性理解	3	
			2 オルガン演奏法	オルガン演奏実践		
			3 鍵盤楽器の範囲	鍵盤楽器全般知識		
14	鍵盤総論	鍵盤総括理解	1 他鍵盤楽器特性	その他鍵盤楽器演奏	3	
			2 鍵盤楽器応用	鍵盤楽器演奏応用		
			3 まとめの発表	まとめの発表ができる		
15	まとめ	楽器総合理解	1 学期の総括	学習内容総括	3	
			2 楽器演奏発表	楽器理解深化		
			3 今後への展望	総合演奏発表		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	河原レオ・郁川舞	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 現代の音楽における録音と波形編集技術に関する知識を深める。マイクとラインでの録音手法を習得し、レコーディングのための録音手法、録音したファイルにおいて3つのエフェクトを活用してミックス技術を学ぶことで、音楽業界で通用する人材を育成する。										
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】 A. 現代の音楽における録音と波形編集技術の知見を得る。 B. マイクとラインでの録音手法で、レコーディングができる。 C. レコーディングしたファイルにおける3種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	現代の音楽における録音と波形編集技術の知見を得る		波形編集技術の知見を得る			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	マイクとラインでの録音手法で、レコーディングができる		ラインでの録音手法で、レコーディングができる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	レコーディングしたファイルにおける3種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる		レコーディングしたファイルにおける1種類のエフェクトを活用したミックス技術の実践ができる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	柴 徳昭	教員の実務経験		有	実務経験の職種		サウンドクリエイター		
【科目の目的】 外部のコンテストや依頼に基づいて、3つの音楽ジャンルを継続的にリサーチするスキルを磨き、制作するテーマに基づいた楽器に関してサウンドの方向性を再現する技術を身につけていく。									
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。									
【到達目標】 A. 実社会から得た知見を本授業内で活かしている。 B. 外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの3種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる。 C. 制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器3種類に関して再現できる技術を習得する。									
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう				レベル1 要努力		
到達目標 A	実社会から得た知見を本授業内で活かしている		実社会から得た知見を説明できる				到達目標Aについてさらなる努力が必要		
到達目標 B	外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの3種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる		外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの1種類の音楽ジャンルを都度リサーチできる				到達目標Bについてさらなる努力が必要		
到達目標 C	制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器3種類に関して再現できる技術を習得する		制作するテーマに基づくサウンドの方向性を楽器1種類に関して再現できる技術を習得する				到達目標Cについてさらなる努力が必要		
【教科書】 特になし									
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する。ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。									
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	杉本 清隆	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 映像やゲームなどのメディアに適した作品制作技術を身につけ、4つの音楽ジャンルや国内外のアレンジャーのスタイルに関する知識を習得する。また、オーケストレーションに必要な楽器のDAW入力方法も学びこれらを組み合わせ、総合的なスキルを向上させる。										
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】 A. 映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する。 B. 3種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。 C. オーケストレーションに必要な3種類の楽器のDAW入力方法を習得する。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう				レベル1 要努力			
到達目標 A	映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する		映像作品にも有効な作品制作技術を習得する				到達目標Aについてさらなる努力が必要			
到達目標 B	3種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する		1種類の音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する				到達目標Bについてさらなる努力が必要			
到達目標 C	オーケストレーションに必要な3種類の楽器のDAW入力方法を習得する。		オーケストレーションに必要な1種類の楽器のDAW入力方法を習得する。				到達目標Cについてさらなる努力が必要			
【教科書】 オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する) 平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン 1				年度	2025
英語表記		Advanced lesson 1				学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	オーケストラ楽	楽器種別理解	1	オーケストラ概要	楽器種別理解	3	
			2	弦楽器識別	オーケストラ構成把握		
			3	室内楽概論	音色と役割認識		
2	弦楽器概論	弦楽器認識	1	弦楽器特性	弦楽器名称習得	3	
			2	弦楽四重奏	弦楽器特性理解		
			3	トランスクリाइブ法	弦楽器演奏技法		
3	室内楽vsオケ	室内楽理解	1	木管楽器識別	室内楽特徴認識	3	
			2	木管特性学習	オーケストラ比較		
			3	名曲分析	アンサンブル感覚		
4	弦楽4重奏	弦四重奏編曲	1	木管四重奏	弦楽四重奏編曲	3	
			2	木管トランスクリाइブ	トランスクリाइブ技法		
			3	金管楽器識別	楽譜の調整能力		
5	木管楽器学	木管楽器知識	1	金管特性学習	木管楽器知識	3	
			2	金管五重奏	木管楽器演奏法		
			3	金管トランスクリाइブ	木管名曲理解		
6	木管名曲解析	名曲から学ぶ	1	打楽器識別	木管曲の分析	3	
			2	打楽器用途学習	演奏技法の応用		
			3	室内楽打楽器	編曲能力向上		
7	木管4重奏	木四重奏編曲	1	室内オケ基礎	木管四重奏編曲	3	
			2	室内オケ名曲	楽譜トランスクリाइブ		
			3	編成理解	四重奏形式理解		
8	金管楽器学	金管楽器知識	1	室内オケトランスクリाइブ	金管楽器知識	3	
			2	全体まとめ	金管特性把握		
			3	レパートリー分析	吹奏感覚習得		
9	金管特性	金管特性学習	1	成果発表会	金管五重奏編曲	3	
			2	オーケストラ構造	トランスクリाइブ実践		
			3	弦楽器役割	五重奏フォーム理解		
10	金管5重奏	金管五重奏編曲	1	室内楽と大編成	打楽器種類把握	3	
			2	弦楽器技法	打楽器使用法		
			3	弦楽編曲法	打楽器演奏練習		
11	打楽器概論	打楽器認識	1	木管楽器役割	室内オケ基礎習得	3	
			2	木管編曲法	オーケストラ理解深化		
			3	木管楽器調和	室内オケ作品研究		
12	室内オケ基礎	室内オケの基礎	1	金管楽器構造	室内オケ編曲法	3	
			2	金管編曲法	トランスクリाइブ応用		
			3	金管楽器調和	編成技術の習得		
13	室内オケ作品	名曲の分析	1	打楽器種類	総合レビュー実施	3	
			2	打楽器編成法	演奏技術の統合		
			3	打楽器室内楽法	コース内容の復習		
14	オケ編成法	編曲技法学習	1	室内オケ展開	学習内容の確認	3	
			2	室内オケ作品分析	自己評価の促進		
			3	室内オケ編成法	実技の総仕上げ		
15	総合まとめ	全体の復習	1	コース総括	成果発表の準備	3	
			2	作品演奏分析	総合的な演奏力向上		
			3	課題提出	学んだ知識の統合		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	Gt:早川治 / Key:藤田美保			教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター		
【科目の目的】 9種類のキーにおいてコード系楽器の基本的な演奏技術を習得する。。その後、楽譜の読解能力を向上させ、音感やハーモニー感覚を発展させるために、関連する実践的な音楽知識やコードについても習得する。										
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】 A・ 9種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。 B・ 9種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。 C・ 9種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	9種類のKeyにおいて、 コード系楽器の基礎的な 奏法を身につける		4種類のKeyにおいて、 コード系楽器の基礎的な 奏法を身につける			到達目標Aについてさら なる努力が必要				
到達目標 B	9種類のKeyにおいて、 楽譜を読む力をつけたう えて、音感やハーモニー 感覚を向上させる		4種類のKeyにおいて、 楽譜を読む力をつけたう えて、音感やハーモニー 感覚を向上させる			到達目標Bについてさら なる努力が必要				
到達目標 C	9種類のKeyにおいて、 コードなど実践に役立つ 音楽的知識を身につける		4種類のKeyにおいて、 コードなど実践に役立つ 音楽的知識を身につける			到達目標Cについてさら なる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン 1			年度	2025
英語表記		Advanced lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	パワーコード1	パワーコード習得	1 パワーコード導入	パワーコード演奏ができる	3	
			2 コード弾き課題	1年次技術の復習		
			3 技術復習1	リズム感の向上		
2	パワーコード2	テクニック復習	1 パワーコード応用	パワーコード応用ができる	3	
			2 コード進行演奏	テクニックの確認		
			3 技術復習2	演奏の自信構築		
3	メジャーコード	メジャーコード習得	1 メジャーコード基礎	メジャーコードの把握	3	
			2 5弦ルート練	5弦6弦ルート理解		
			3 転回形習得1	転回形の実践		
4	マイナーコード	マイナーコード習得	1 マイナーコード基礎	マイナーコードの理解	3	
			2 6弦ルート練	異なる運指での演奏		
			3 転回形習得2	音の流れの認識		
5	アドリブ初級	ペントアドリブ1	1 ペンタトニック基礎	ペンタトニックの利用	3	
			2 スローテンポ練	アドリブ基本技法		
			3 アドリブ導入1	スローテンポ対応		
6	アドリブ中級	ペントアドリブ2	1 ペンタトニック応	ペンタトニックの応用	3	
			2 リズム変更伴奏	即興演奏の向上		
			3 アドリブ導入2	リズム変化の実践		
7	特殊コード1	演奏技術向上	1 min7(b5)進行	min7(b5)活用ができる	3	
			2 コード進行演習1	複雑なコード進行対応		
			3 アレンジ課題1	アレンジ能力の向上		
8	特殊コード2	演奏技術向上	1 7(9)コード進行	7(9)コード応用ができる	3	
			2 コード進行演習2	発展的アレンジ技法		
			3 アレンジ課題2	クリエイティブな表現		
9	分数コード	演奏技術向上	1 分数コード理解	分数コードの正確性	3	
			2 テンションコード1	テンションコード理解		
			3 正確弾き課題	複数コード演奏能力		
10	ヴォイスング	演奏技術向上	1 ヴォイスング理解	ヴォイスングの実践	3	
			2 自己響き作成	オリジナリティの追求		
			3 テンションコード2	個性的なサウンド創出		
11	課題曲コード進行1	音楽理論の理解	1 日本曲コード1	日本曲コード進行理解	3	
			2 アップテンポ伴奏	アップテンポへの対応		
			3 コード進行習熟	曲の構造把握		
12	課題曲コード進行2	音楽理論の理解	1 日本曲コード2	日本曲応用演奏能力	3	
			2 アップテンポ応用	速いテンポの演奏技術		
			3 表現力向上	流暢な演奏の習得		
13	課題曲コード進行3	音楽理論の理解	1 日本曲コード3	リズムの多様性	3	
			2 左右手リズム	コンビング技術の向上		
			3 コンビング応用	即興とアレンジの融合		
14	リズムトレーニング	演奏技術向上	1 総まとめ実施1	総合的な演奏能力	3	
			2 リズム分解応用	右手左手の独立性		
			3 自由演奏展開	高度なリズムの理解		
15	まとめ	総復習と試験	1 総まとめ実施2	試験曲の演奏能力	3	
			2 全体試験準備	総合評価への対応		
			3 曲演奏試験	表現力の最終確認		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	西川進	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】										
学外でのプレゼンテーションを考慮し、オリジナルな要素の追求を学ぶ。また、各トラックの音量と配置を調整して高品質なデモ作品を完成させ、学外での発表を想定し、作品制作に再現性と継続性を持たせることが期待される。										
【科目の概要】										
音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】										
A. 学外発表を想定して、オリジナリティの追求がされている。 B. 各トラックの音量・定位を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する。 C. 学外発表を想定して、作品制作に再現性と継続性が見込める。										
【授業の注意点】										
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	学外発表を想定して、オリジナリティの追求がされている		オリジナリティの追求がされている		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	各トラックの音量・定位を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する		各トラックの音量を適切に揃えている品質のデモ作品が完成する		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	学外発表を想定して、作品制作に再現性と継続性が見込める		作品の譜面を提出することができる		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】										
特になし										
【参考資料】										
必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】										
評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン 1				年度	2025
英語表記		Advanced lesson 1				学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	リハーモナイズ	キー特定技術	1	キーの特定	曲のキー特定ができる	3	
			2	リハーモナイズ	リハーモナイズ応用ができる		
			3	アレンジ技法	アレンジ創作能力向上		
2	リズムの捉え方	リズム感習得	1	リズム感覚	リズム感覚を磨ける	3	
			2	テンポ変更	テンポによる印象把握		
			3	印象操作	スピード感の調整法習得		
3	共通音フレーズ	フレージング	1	共通音使用	共通音の利用技術	3	
			2	フレーズ開発	フレーズ創作の発想力		
			3	創造性促進	アレンジの応用能力拡大		
4	キラキラ感	音色技術	1	キラキラ効果	キラキラ感の演出法理解	3	
			2	音色選定	音色と演出の関連性認識		
			3	表現方法	独自性のある表現力育成		
5	終わり方研究	フレージング	1	終わり方構築	終わり方の構成力向上	3	
			2	演出技法	スタイリッシュな演出法		
			3	演奏表現	パフォーマンスの洗練		
6	制作実践 1	制作技術習得	1	ミックス理論	ミックスの基礎理解	3	
			2	マスタリング技	マスタリングの基本技術		
			3	音楽制作流れ	音楽制作プロセス把握		
7	作品発表 1	プレゼン技術1	1	書き出し手順	書き出し手順の確立	3	
			2	ファイル管理	ファイル管理の徹底		
			3	プレゼン作成	プレゼンシート作成スキル		
8	ギターアンプ研究	エフェクト技術	1	プレゼン技法	プレゼンテーション力向上	3	
			2	発表準備	自己の作品発表能力		
			3	ギターアンプ解析	ギターアンプの知識獲得		
9	アコギ研究	音色技術	1	エフェクター選択	エフェクター使用法理解	3	
			2	音色改善	音色調整の技術習得		
			3	アコギ構造	アコギ構造の理解深化		
10	ハーモニー研究	ギターハーモニー	1	奏法研究	アコギ奏法の技術向上	3	
			2	音響理解	アコースティック音響学		
			3	ハーモニー概念	ギターハーモニー理論把握		
11	民族楽器研究	音色技術	1	ギター和音	ギター和音の応用能力	3	
			2	アレンジ法	アレンジへの応用展開		
			3	民族楽器紹介	民族楽器知識の習得		
12	オルガン音色研究	音色技術	1	アレンジ応用	異文化音楽への理解	3	
			2	文化理解	アレンジメント技法発展		
			3	オルガン特性	オルガン音色の理解強化		
13	ピアノ音色研究	音色技術	1	音色分析	音色分析能力の向上	3	
			2	歴史的背景	オルガン演奏の表現力		
			3	ピアノ音色	ピアノ音色の鑑賞性能		
14	制作実践 2	制作技術習得	1	エフェクト応用	エフェクト選択の適性	3	
			2	感性磨き	表現の多様性拡充		
			3	制作練習	音楽制作技術の総合化		
15	作品発表 2	プレゼン技術	1	プロセス確認	制作プロセスの最適化	3	
			2	総合演習	完成作品のクオリティ		
			3	プレゼン構築	プレゼン構成力の向上		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 3つの異なる音楽ジャンルに合わせた作曲技術を学び、さらに編曲技術を習得する。DAWデータ内の任意のトラックに少なくとも1つのエフェクトを適用し、オーディションやコンテストに参加することで、さらにスキルアップを目指す。										
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】 A・ 3種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること B・ 3種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること C・ DAWデータの任意のトラックに最低1種類のエフェクトを適用し楽曲を提出できる										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう				レベル1 要努力			
到達目標 A	3種類のジャンルに 合わせた作曲の技術 を身につける		1種類のジャンルに 合わせた作曲の技術 を身につける				到達目標Aについてさ らなる努力が必要			
到達目標 B	3種類のジャンルに 合わせた編曲の技術 を身につけること		1種類のジャンルに 合わせた編曲の技術 を身につけること				到達目標Bについてさ らなる努力が必要			
到達目標 C	DAWデータの任意のト ラックに最低1種類の エフェクトを適用 し楽曲を提出できる		DAWソフトにてプラグ インエフェクトをか けることができる				到達目標Cについてさ らなる努力が必要			
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 1							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 1							学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース 2年次	必／選	必	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 音楽制作において大事な絶対音感と相対音感の理解を深め、相対音感に基づくハーモニーの感覚を習得することで、自身の作品に豊かな音楽性を加えていく。										
【科目の概要】 音楽制作のスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、各種オーディションやコンテスト等に積極的に参加。 音楽業界で通用するスキルと知識を持った音楽家育成します。										
【到達目標】 A. 絶対音感と相対音感について理解する B. 相対音感に基づくハーモニーの感覚が理解できる C. 移動ド唱法が理解できる										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	絶対音感と相対音感について深く理解する		絶対音感と相対音感についてやや理解する			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	相対音感に基づくハーモニーの感覚が深く理解できる		相対音感に基づくハーモニーの感覚が理解できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	移動ド唱法で実演ができる		移動ド唱法が理解できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内課題、レポートなどで行う。										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン 1			年度	2025
英語表記		Advanced lesson 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	音感養成	課題の理解	1 楽譜読解	楽譜基礎が読める	3	
			2 音感練習	絶対音感が身につく		
			3 歌唱エクササイズ	簡単な歌が歌える		
2	音感養成	エクササイズ	1 楽譜応用	楽譜読解が早くなる	3	
			2 音感向上	絶対音感が認識できる		
			3 即興歌唱	複数の歌を覚える		
3	音感養成	エクササイズ	1 楽譜熟練	楽譜の詳細が理解できる	3	
			2 絶対音感	絶対音感が正確になる		
			3 歌による学習	歌で表現ができる		
4	音感養成	エクササイズ	1 楽譜深化	楽譜がすらすら読める	3	
			2 音感自然化	絶対音感で即応できる		
			3 表現力強化	異なるジャンルを歌う		
5	音感養成	エクササイズ	1 楽譜洞察	楽譜が完璧に読める	3	
			2 音感確立	絶対音感を自在に使う		
			3 創造的表現	感情を込めて歌える		
6	音感養成	エクササイズ	1 楽譜解釈	音程の差を聞き分ける	3	
			2 絶対音感精緻	正確な音程を歌える		
			3 歌との一体化	音程トレーニングができる		
7	音感養成	エクササイズ	1 楽譜技術	音程を完璧に認識する	3	
			2 音感養成	複雑な音程を理解する		
			3 表現の自由度	音程トレーニングを自主的に行う		
8	音感養成	エクササイズ	1 楽譜の洗練	音程の正確な認識ができる	3	
			2 音感の研ぎ澄まし	独特な音程を識別できる		
			3 感情表現と音感	音程を用いた即興ができる		
9	音感養成	エクササイズ	1 読譜力向上	難易度の高い音程が分かる	3	
			2 音感自在化	音程を使った表現が豊かになる		
			3 創造的な歌唱	音程を活かした独自の歌が歌える		
10	音感養成	エクササイズ	1 楽譜の完全理解	音程の微かな変化を感じ取る	3	
			2 音感と即興	音程を応用した演奏ができる		
			3 歌の内面化	音程で感情を伝えられる		
11	音感養成	エクササイズ	1 音読の達人	音程聞き分けの精度が上がる	3	
			2 音感の極致	音程を用いた創作ができる		
			3 歌と即興結合	音程とリズムが融合できる		
12	音感養成	エクササイズ	1 音程理解	音程を自由に操れる	3	
			2 音程認識	複雑な音程変化を捉えられる		
			3 聞き取り強化	音程に基づいた即興創作		
13	音程聴音	課題の理解	1 音程の比較	音程を活かした独自表現	3	
			2 相対音感	音程聞き分けのスキル向上		
			3 聞き取り練習	音程に敏感になる		
14	音程聴音	エクササイズ	1 音程感知	音程で感情を表現する	3	
			2 音程記憶	音程を巧みに使いこなす		
			3 聞き取り精度向上	音程の微細な違いを識別		
15	音程聴音	エクササイズ	1 音程の応用	音程を使ったアレンジができる	3	
			2 音程と表現	音程を完全に理解できる		
			3 制限時間内での聞き取り	制限時間内での聞き取りができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等